

第 49 章

モルモン 7－9 章

はじめに

モルモンの最後の証^{あかし}とモロナイが最初に書いた記録を研究することによって、モルモン書の役割と目的について理解が深まるだろう。モロナイは次のように宣言している。「わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。」(モルモン 8:35) モロナイは預言者としての視野を持つことによって、時満ちる神権時代に悪事が激しさを増すことも霊的に大きな祝福が注がれることも完全に知ったうえでニーファイ人の記録を完成させることができた。ひどい困難に直面するときに信仰を捨ててしまう傾向のある人々もいる時代にあって、モロナイの言葉はわたしたちに、奇跡と啓示を「神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であ[る]」ことを示す証拠としてとらえるように教えている(モルモン 9:9 参照)。この世の霊的および社会的な状態は絶えず変化し、墮落していく状況にあるかもしれないが、神の聖約の民は、神が永遠に変わらない御方であるということを十分に確信することができるのである。

注解

モルモン 7 章 末日におけるイスラエルの残りの者への勧告

・モルモンはその最後の言葉の中で、レーマン人の子孫に向けて語り、彼らが「イスラエルの家の残りの者」であることを断言している(モルモン 7:1)。現世における敵であったにもかかわらず、モルモンはレーマン人を愛していた。その愛は、モルモンが霊的にどれほど成熟した人物であったか、また、福音の祝福のすべてを受けることがどれほど重要であるかを示している。モルモンがあなたに直接語っているかのように、彼の最後の証^{あかし}と勧告について熟考する。「救い主の模範」に従って「裁きの日に幸いを得」られるようにするために(モルモン 7:10)、あなたは何を^{あかし}知る必要があり(モルモン 7:1－7 参照)、何を行う必要がある(モルモン 7:8－9 参照)とモルモンは教えているだろうか。

モルモン 7:2 「あなたがたは……イスラエルの家に属している」

・レーマン人の残りの者に対するモルモンのメッセージは、イスラエルの家のすべての者にも当てはまる(252 ページにあるヒラマン 3:30 の注解参照)。

モルモン 7:2－5 キリストを信じるようにというモルモンの最後の嘆願

・十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、末日の人々に向けられた、キリストを信じるようにというモルモンの胸を刺すような嘆願について熟考し、次のように述べている。

「モルモンは死を目の前にして、時間と空間を超えてすべての人に、特にいつの日か彼の威厳に満ちた記録を読むであろう『イスラエルの家の残りの者』に向けて独白している。別の時代と場所に生を受けている者たちは、モルモンの目の前に横たわっていた人々が忘れてしまったことを学ばなければならない。それはすなわち、すべての人は『イエス・キリストを信じ』なければならないこと、また、『イエス・キリストは神の御子』であり、エルサレムにおいて十字架上で亡くなられた後、『御父の力によって再びよみがえって墓に対して勝利を得られた。そして、死のとげはイエス・キリストにのまれてしまった』ということである[モルモン 7:2－5]。……

『キリストを信じる』ように、というのが、特にこのような悲劇的ではあるが避けることのできた結末から生じた、モルモンの最後の嘆願であり、唯一の願いであった。そしてそれこそが、彼の名前を冠して末日の世にもたらされることになる書物全体の究極の目的なのである。」(Christ and the New Covenant [1997 年], 321－322)

モルモン 7:8－9 モルモン書と聖書は互いに支え合う

・聖書はモルモン書について証^{あかし}し、モルモン書は聖書について証する。モルモンは次のように宣言している。「この記録[モルモン書]を書き記しているのは、[聖書]をあなたがたに信じさせるためである。また、あなたがたはそれ[聖書]を信じるならば、これ[モルモン書]も信じるであろう。」(モルモン 7:9)

ブリガム・ヤング大管長(1801－1877 年)は、モルモン書を真剣に読み、そこに書かれている教義を学んだ人であれば、聖書を心から信じていると主張しながらモルモン書を信じないことなど不可能だと宣言している。



「モルモン書を読んだり、その朗読を聞いたり、そこに書かれている教えを学んだりしている人であれば、(聖書の上に手を置きながら)この書物が真実であり、また神の言葉^{みことば}、道、道しるべ、神の御心

を知るための憲章であると言いながら、その一方でモルモン書は真実でないなどと言うことは決してできません。この二つの書物からイエス・キリストの福音について学ぶ特権を得ていながら、その一方は真実だが、片方は誤りだなどと言える人は、この地上に一人もいません。」(Discourses of Brigham Young, ジョン・A・ウィットソー選 [1954 年], 459)

・モルモン書の目的の一つは、聖書が真実であることを世に証明することである(教義と聖約 20:11 参照)。モルモン書を読む人は、聖書についての証が増す。エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994 年)は、聖書とモルモン書に対して自らが抱いている愛と、イエスがキリストであることをこれらの書物がどのように証しているかについて、次のように語っている。



フレッジ・K・オルセン、© 1990 IRI

「わたしは、旧約聖書および新約聖書に特別な親しみを感じています。聖書は偉大な真理の源です。……

……この神聖な書物である聖書は、人の子らに計り知れないほどの価値をもたらしてきました。事実、預言者ジョセフ・スミスが靈感を受けて、家の近くの森に行って祈ったのは、聖書の言葉によってでした。そして、その後に受けた栄光の示現は、この地上におけるイエス・キリストの完全な福音の回復の幕開けとなったのです。また、その示現は、新しい聖典〔モルモン書〕をこの世にもたらす過程の発端となりました。その新しい聖典は、聖書とともに、イエスが救い主であられること、神が生きておられること、神がその子供たちを愛しておられること、神は今もなお子供たちの救いや昇栄の業に携わっておられることなどを証するものです。」(『聖徒の道』1987 年 1 月号, 85)

モルモン 8:1 - 6 モロナイ

・モロナイは父親であるモルモンの死と、すべてのニーファイの民の滅亡を見た。それでもモロナイは命を守られ、現世での自分の使命を忠実に果たした。主はモロナイを「〔ニーファイ〕の民の滅亡の悲話」を書き終える務めに任じられた(モルモン 8:3)。

モロナイは世を去る前に、父親の書の最後の部分を書き(モルモン 8 - 9 章)、ヤレド人の記録を短くまとめ(エテル書)、ヤレドの兄弟が見た示現を版の封じられた部分に記録し(エテル 4:4 - 5 参照)、自分自身の書も書いた(モロナイ書)。しかし、モロナイの使命はわたしたちの神権時代に

おいても続いている。現代の啓示により、わたしたちはモロナイが「エフライムの木の記録の鍵」を持っていることを知っている(教義と聖約 27:5)。復活したモロナイは預言者ジョセフ・スミスを教え導き、モルモン書をもたらすことを含め、完全な福音の回復におけるジョセフの役割について数回にわたってジョセフを指導した(ジョセフ・スミス—歴史 1:30 - 60; History of the Church, 第 1 巻, 9 - 19 参照)。回復におけるモロナイの役割を表現して、教会ではそのほとんどの神殿の尖塔にモロナイの像を据えている。



ウォルター・レーン、教会歴史美術館の同意により複製

・モルモン 8:1 - 6 には、モロナイがどのような状況の下で生きていたかが明らかにされており、彼のメッセージの緊急性を理解するのに役立つ。十二使徒定員会の L・トム・ペリー長老は、遠い昔に聖文を書き記した人たちの立場になって読むように助言している。ブリガム・ヤングの言葉を引用して、ペリー長老は次のように述べている。

「『兄弟姉妹、皆さんは自分自身が 1,000 年、2,000 年、あるいは 5,000 年前に聖文を書いているような気持ちで聖文を読んでいるでしょうか。当時それらの記録を書いた人の身になって読んでいるでしょうか。今そのように感じていなくても、皆さんにはそのように感じる特権があるのです。それは、皆さんが今の時代の日常生活や会話……を理解しているのと同じように、記録として残された神の言葉の精神と意味をよく理解するためです。』(Discourses of Brigham Young, ジョン・A・ウィットソー選 [ソルトレーク・シティー, Deseret Book Co., 1941 年], 128) ……」

……ブリガム・ヤング大管長の勧告に従い、ニーファイ人の最後の偉大な預言者モロナイと同じ場所に、わたしたちがいると考えてみましょう。託された大切な記録を完成させるようにという、父親から授かった任務は困難を極めました。モロナイは、ニーファイの民の完全な滅亡をどれほどつらい思いで記したことでしょう。

自分の民が滅亡に至るまでレーマン人に追い詰められた有様を^{ありさま}やむを得ぬ思いで記していきました。孤独感にさいなまれながらも、レーマン人に殺された者の中に父親がいたことも記したのです。モロナイは記録を完成させるためだけに生きていたのではないかと感じます。こう記しています。『そこでわたしは、記録を書き記して、地の中に隠そう。そう

すれば、わたしはどこへ行こうとかまわない。』(モルモン 8:4)

モロナイに残されていたものといえば、記録を完成させるまでは主が自分を生き長らえさせたもうことと、いつの日かこの記録が主に選ばれた人によって見いだされることへの信仰だけでした。モロナイは、この記録が未来の世の人々に向けた警告の声となるのを知っていました。つまり、人々がニーファイの民と同じように主の教えに背を向けたとき、何が起きるかを伝える働きをするということです。彼は、後の世でこの記録を受ける人々に心を込めて呼びかけています。不従順がもたらす心痛と不幸から、自分の話を読む人々を守りたいと望んでいるのです。

モロナイは、まず教会員に向けて記した後、イエス・キリストの福音を受け入れなかった人々に向けて書いています。モロナイが教会員に向けた言葉の最後は、警告の声となっています。彼は、自分の民の身に起きたのと同じことが、未来の世で起きるのを目にしているように記しています。』(『聖徒の道』1993年1月号, 18)

モルモン 8:14 – 18 「この記録を明るみに出す者は幸いである」

• モルモン 8:16 では、モルモン書を世にもたらすように選ばれた預言者ジョセフ・スミスに言及している(教義と聖約



3:5 – 10 参照)。昔の預言者の多くがジョセフ・スミスについて知っており、彼が無事に金版を翻訳して出版し、神の目的を果たすことができるように祈った(モルモン 8:22, 24 – 25; 教義と聖約 10:46 参照)。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、モルモン書をもたらすこと

においてジョセフ・スミスが果たした役割について次のように語っている。

「事実は明瞭です。それはジョセフ・スミスが神の預言者であり、それ以上の者でも以下の者でもないことです。

聖典はジョセフ・スミスから与えられたというよりはむしろ彼を通してもたらされたものです。彼は啓示が与えられる仲立ちとなりました。……

預言者ジョセフ・スミスは、学問のない、一介の農家の息子でした。彼が若いころに書いた手紙を読むと、つづりも文法も、また語法もあまり洗練されていないことがうかがえます。

そのような彼を通して、文学的にも味わいのある形で啓示がもたらされたということは、まったくの奇跡です。』(『聖徒の道』1974年12月号, 562 – 563)

モルモン 8:19 – 20 「裁きはわたしのすることである」

• 十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、「『裁きはわたしのすることである……』と、主が言われる」という聖句について次のように述べている。「最後の裁きについて話します。将来行われるこの裁きでは、わたしたちのすべてが自分の行いに応じて裁かれるためにキリストの裁きの座の前に立つことになります(1 ニーファイ 15:33; 3 ニーファイ 27:15; モルモン 3:20; 教義と聖約 19:3 参照)。……聖文にある『裁いてはならない』という戒めは、この最後の裁きについて端的に述べているとわたしは信じています。モルモン書では次のように宣言されています。『「人は……裁いて〔は〕ならない。裁きはわたしのすることである。……』と、主が言われる。』(モルモン 8:20)」(“‘Judge Not’ and Judging,” *Ensign*, 1999年8月号, 7)

モルモン 8:22

わたしたちが主のために働くとき、この節にあるモロナイの言葉によって、どのように強められるか。

モルモン 8:31 終わりの時における^{けが}汚れ

• モルモン 8:31 では、わたしたちの時代における「ひどい汚れ」について述べられている。七十人会長会の一員として働いていたとき、ジョー・J・クリステンセン長老はここで語られているひどい汚れは環境に関するものではなく、おもに霊に関するものであると述べている。

「酸性雨、大気汚染、有害な廃棄物などの環境破壊に関する話題を、今日のわたしたちはよく見聞きします。しかし、もっと有害な公害が〔あります〕。それは、道徳的、霊的な汚染のことです。

最近の大会説教の中で、ボイド・K・パッカー長老は次のように言いました。『道徳的環境を調べると、汚染の指数は上昇の一途をたどっています。』(『聖徒の道』1992年7月号, 70) 使徒パウロは、『終りの時には、苦難の時代が来る』と予見しています(2 テモテ 3:1)。またこの末日について預言者モロナイも次のように語りました。『まことに、地の^{おもて}面にひどい汚れが……ある時代に、……それは出て来る。』(モルモン 8:31)

残念なことに、この汚れた行いの影響は、マスメディアや映画、テレビ番組、流行の音楽などに顕著に現れています。このことに関し、ロバート・D・バード上院議員はこう言っています。『もしわたしたち国民が、この国のたくさんの子供たちに、……殺人や暴力の場面、薬物を誤用する光景……性倒錯の有様〔や〕ポルノグラフィーを見せていたら、我が国の社会の基盤は、ちょうどハンセン病が肉体をむしばんでいくように、崩れ去ってしまうだろう。』（マイケル・メドベッド、*Hollywood vs. America*〔ニューヨーク、Harper Pennial、1992年〕、194）

……マスメディアを見てみると、……たいていの場合、家族や宗教や愛国心など、人々が最も大事にしている事柄のほとんどすべてに対して反旗を翻しているように思われます。結婚生活は軽視され、その一方婚前交渉や不貞が奨励され、美化されています。不敬な言葉、汚れた言葉はひっきりなしにわたしたちの耳に襲いかかってきます。……暴力や殺人の場面があまりにも頻繁に登場するため、人命自体が取るに足りないものと思われています。』（『聖徒の道』1994年1月号、12）

モルモン 8:34 - 35 ^{こんにち}今日のわたしたちのために書かれた

• エズラ・タフト・ベンソン大管長は、モロナイがわたしたちの時代を見、わたしたちを念頭に置きながら書いたと知ること、わたしたちのモルモン書の研究は変わるはずだと述べている。

「モルモン書をわたしたちの学びの中心としなければならぬ……理由は、このモルモン書がわたしたちのために書かれたものであるからです。ニーファイ人たちにも、古代のレーマン人たちにもモルモン書はありませんでした。まさにわたしたちのためのものなのです。モルモンはニーファイ人の文明の末期にこれを書き記しました。すべての初めから見ておられる神の靈感の下に、モルモンはわたしたちのためになる物語、話、出来事に関する記録を選んで短くまとめたのです。

モルモン書の執筆者たちは口をそろえて、それが後世の人々のためであることを証しています。……

モルモン自らの言葉で『イスラエルの家の残りの者よ、わたしはあなたがたに述べ



る』と言っています（モルモン 7:1）。そして靈感を受けた最後の執筆者であるモロナイは、実際のわたしたちの時代を見〔ました。〕……

彼らがこの日のことを見、わたしたちのためになることを選んでくれたとしたならば、なおさらモルモン書を学ぶ必要があるのではないでしょうか。『この記録をモルモン（モロナイあるいはアルマ）に書くよう主が靈感を与えられたのはなぜだろうか、現代の生活への教訓として何を学べるのだろうか』と絶えず自問する必要があります。

そして、その質問への答えの例は数限りなくあります。』（『聖徒の道』1987年1月号、6 参照）

モルモン 9:1 - 6 神の前での惨めな状態

• ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972年）は、悔い改めなかった者がイエス・キリストの前で惨めな状態となる理由を次のように説明している。

「悔い改めを抜きにして救いはあり得ない。人は罪を負ったまま神の王国に入ることはできない。人が罪を負ったまま御父の前に来てそこに住むことはきわめて矛盾したことである。……

現世は主の戒めを破って気ままに過ごせばよい、いずれは主の前に戻ることができると考えている人が非常にたくさんいると思う。恐らくそのうちの多くの者、あるいは少なくとも幾人かは教会員であるかもしれない。彼らは恐らく霊界で悔い改めるつもりなのだろう。

彼らはモロナイの次の言葉を読むべきである。『あなたがたは、自分に罪の意識のあるままで、〔キリスト〕とともに住めると思うか。あなたがたは、神の小羊の律法を踏みじったという罪の意識に苦しんでいながら、あの聖なる御方とともに幸せに暮らせると思うのか。』（モルモン 9:3）』（*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編、全3巻〔1954 - 1956年〕、第2巻、195 - 196）

モルモン 9:3 - 6 「罪の意識」

• スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）は、罪を犯した者が罪悪感という重荷と悔い改めの必要性を感じる理由について次のように説明している。

「悔い改めの過程は、まず罪をはっきりと認めることから始まります。罪を自覚することで、心や精神が痛み、時には肉体さえ痛みを感じることもあるかもしれません。そうした自分自身を背負って生きていくには、罪を犯した人は次のいずれかの道を進むことになります。まず心に鎮静剤を打って善悪を判断する力を鈍らせ、感覚を弱め、罪を犯し続けると

いう道です。この道を選んだ人はやがて罪に対して無感覚となり、ついには悔い改めたいという思いさえなくしてしまいます。もう一方の道は、罪を深く悔い、心から悲しんで悔い改め、やがて赦しを得るという道です。

悔い改めない人に赦しは決して与えられません。このことを忘れないでください。そして悔い改めは、罪の言い訳や正当化をやめて、素直に自らの行いがあるがままに受け入れられるようになって初めてもたらされるのです。攻撃的な態度を執ったり、罪の重大さを合理化したり、あるいは罪の大きさを軽々しく考えたりすることなく、自分が罪を犯したことを素直に認めなければなりません。また自分の犯した罪が実際由々しいものであり、その大きさを偽って言うことはできないことを心に留めなければなりません。この道を選び、生活を改善しようとする人は、悔い改めは大変なことだと最初は思うでしょう。しかし、悔い改めの結ぶ実を味わううちに、この道こそほんとうに自分が望んでいたものであることが分かってくるのです。』（「悔い改めの福音」『聖徒の道』1983 年 3 月号, 3 - 4）

モルモン 9:7 - 8 啓示と聖文

• ダリン・H・オークス長老は、聖文と個人の啓示の関係を次のように説明している。

「聖書やほかの聖典をどのように読み、用いるかに関して〔末日聖徒〕がほかの大半のクリスチャンと異なるのは、絶えず啓示が与えられることを信じている点です。わたしたちにとって、聖文は知識の究極の源ではなく、究極の源に先立つものです。究極の知識は啓示によってもたらされます。わたしたちはモロナイと声を合わせ、啓示を否定する人は『キリストの福音を知らない』と断言します（モルモン 9:8）。

聖文に記されている主の言葉はわたしたちの足元を照らすランプのようであり（詩篇 119:105 参照）、啓示はランプの明るさを何倍にも増す大きな力のようです。わたしたちはすべての人に、聖文と、聖文に関する預言者の教えを注意深く研究し、その意味を自分で知るためによく祈って個人の啓示を求めるように勧めます。」（“Scripture Reading and Revelation,” *Ensign*, 1995 年 1 月号, 7）

モルモン 9:9 - 10 「神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であり」

• モロナイは、神は「昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方」であると宣言している（モルモン 9:9）。現代の啓示は次のことを確認している。すなわち、モルモン書の出現は神が昔と同じようにわたしたちの時代にあっても引き続き「人々に靈感を与えて、……神の聖なる業に人々を召しておら

れること」を証明しており、「昨日も、今日も、またとこしえに変わることのない神であること」を示しているのである（教義と聖約 20:11 - 12）。

『信仰に関する講話』（*Lectures on Faith*）には、神を信じる完全な信仰を持つためには、人は神の「性質と完全さと特質」について正しい理解を得なければならないと述べられている（〔1985 年〕, 38）。神の特性の一つは、神は変わることがないということである。〔「神は」変わられることなく、変わるところもなく、永遠から永遠にわたって、昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方である。その道は変わるところのない一つの永遠の環である。』（*Lectures on Faith*, 41）神がわたしたちの時代にあってその聖なる業を続けておられ、昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であると知っていることで得られる祝福について考える。

• モロナイは「変わることのある神……を想像している」人々がいると警告している（モルモン 9:10）。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、わたしたちは変わることのある神や、今もなお新たな真理を学んでいる神を信じたり、頼ったりすることはできないと教えている。

「善意ある末日聖徒の中には、『永遠の進歩』という概念から、神が全知であられることについて制限を付けて考えている人がいる。神の進歩は、神がさらに知識を得ていかれることと関連していると、誤って思い込んでいるのである。……

……神が継続して受けられる大いなる喜びと栄光は、御自分の創造物を増やし、向上させることによってもたらされるのであり、新たな知的体験から得られるのではない。

したがって、神が全知であられることと、神が今もなおさらなる重要な真理と必須のデータを求め続けている博士号取得後の研究員のような存在であるという誤った考え方との間には、大きな違いがある。後者であるとすれば、神はいつでも、以前に知らなかった何かの新たな真理を発見するかもしれない。それは、神が以前に知っていた特定の真理を改めて組み立てる、またはその価値を減じる、あるいはそれを切り捨てることになる。預言は単なる予測と化してしまうことであろう。わたしたちの贖い^{あがな}に関して計画された前提事項は改訂されなければならない。しかしながら、幸いなことに、神の救いの計画は、着実に進行中であり、絶えず改訂されてはいないのである。……」（*All These Things Shall Give Thee Experience*〔1979 年〕, 14 - 15）

モルモン 9:20

モロナイによれば、神が人々の中で奇跡を行うのをやめられるのはなぜか。

モルモン 9:10 - 26 奇跡

• 神の奇跡を証するものとしてモロナイが挙げている証拠に注目する——天地の創造（モルモン 9:17 参照）、人の創造（17 節参照）、およびイエスと使徒たちが行った奇跡についての聖文の証（18 節参照）。モロナイが述べた「奇跡の神」は今もお見いだすことができる。ダリン・H・オックス長老は、多くの奇跡がわたしたちの時代に起こっており、イエス・キリストのまことの教会に見られていることを証している。

「教会の業や会員たちの人生の中で、日々たくさんの奇跡が起きています。皆さんの多くも、恐らく気づいている以上に奇跡を目撃しています。

奇跡は『死すべき人間が理解できず独力で再現できない、天からの力を通して行われる有益な出来事』と定義されてきました〔ダニエル・H・ラドロー編、*Encyclopedia of Mormonism*, 全 5 巻（1992 年）、第 2 巻、908〕。神の力によって出来事が起こるという考えは、宗教を信じない多くの人々や、信じる人々の一部からさえ拒まれていました。……

……神権の力によって行われる奇跡は、イエス・キリストのまことの教会には常に存在します。モルモン書には『神は人が信仰によって偉大な奇跡を行うことができるように、一つの手段を与えてくださいました』と教えられています（モーサヤ 8:18）。この与えられている『手段』とは神権の力であり（ヤコブの手紙 5:14 - 15；教義と聖約 42:43 - 48 参照）、その力は信仰によって奇跡を行います（エテル 12:12；モロナイ 7:37 参照）。」（“Miracles,” *Ensign*, 2001 年 6 月号, 6, 8）

• 十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915 - 1985 年）は、奇跡がやんでしまうことがあるのはなぜかについて次のように語っている。

「ある時代にしるしや奇跡がやむのはなぜだろうか。すべての時代にすべての民の間でしるしや奇跡が見られるわけではないのはなぜだろうか。昔の人々は、かつて彼らのものであったのと同じ地上に現在住んでいるわたしたちよりも大きな祝福を受けるに値する人々だったのであろうか。モロナイは次のように答えている。賜物と奇跡の神が『人の子らの中で奇跡を行うのをやめ』、彼らのうえに賜物を注ぐのをお

やめになるのは、『彼らが不信仰に陥り、正しい道から離れ、頼るべき神を知らないためである。』彼らは自分たちの信条によって定めた偽りの神々を礼拝し、昔の聖徒たちが進んだ道をもはや歩まない。

変わったのは人であって、神ではない。神は永遠に変わることはない御方である。同じ信仰を持ち、同じ律法に従って生きる人は皆、同じ祝福を刈り取ることになる。」（*A New Witness for the Articles of Faith* [1985 年], 367）

モルモン 9:32 - 34 モロナイは改良エジプト文字で書き記した

• モロナイは、自分は少なくとも二つの言語、すなわちヘブライ語とエジプト語で書くことができると述べている（モル



モン 9:32 - 34 参照）。そして、もし「版が十分に大きかった」ならばヘブライ語で書き記したであろうが、余地がないことから、記録を残してきた人々は「改良エジプト文字」を用いたと言っている（32 - 33 節）。モルモン書の

これ以前の箇所では、ニーファイとベニヤミン王が、自分たちがエジプト語を使用していたことを認めている。ニーファイは、小版に刻むときに「エジプト人の言葉」で書き記したと述べている（1 ニーファイ 1:2）。ベニヤミン王は、^{しんちゅう}真鍮の版の大切さについて息子たちに語った際、リーハイは「エジプト人の言葉を教えられていた」ので記録を読むことができたと言っている（モーサヤ 1:4）。したがって、リーハイが福音とエジプト語を「子供たちに教え」、それによって「子供たちもまたその子供たちに教え」ることができたということが分かる（モーサヤ 1:4）。その後の記録者たちの世代においても同様のことが行われたことは明らかであり、後にモロナイもその言語を父親から学んだのであった。しかし、モロナイは「改良エジプト文字」で書いたと述べており、このことはリーハイの時代から千年以上にわたる期間のうちに言語の用法が彼らに適したものに変えられていたことを示している（モルモン 9:32）。モロナイが最後に、「わたしたちの言語を知っている民はほかにない」が、神は最終的に記録を翻訳する手段を備えられたと述べているのもそのためである（モルモン 9:34）。

理解を深めるために

- モルモンが敵も含めてほかの人々のことを心配する様子から、どのようなことが学べるだろうか（モルモン 7 参照）。
- モロナイは何年も独りで過ごしたが、信仰と証によって平安を得ていた。世の中で孤独だと感じるとき、証はどのような助けとなるだろうか。
- 今日の地上に見られる「霊的な汚染」にどのようなものがあるだろうか。そのようなものに汚されないようにするにはどうすればよいだろうか。
- 自分の人生において、これまでどのような奇跡を目にできただろうか。

割り当ての提案

- モルモン書の出現についての預言を探しながら、次の聖句を研究する。

イザヤ 29：4

2 ニーファイ 3：19－20

2 ニーファイ 26：16

2 ニーファイ 33：13

エノス 1：15－16

モルモン 8：23

モルモン 9：30

モロナイ 10：27

モーセ 7：62

ジョセフ・スミス—歴史 1：52－53

これらの節をつないで「聖句の鎖」を作るとよい。まずイザヤ 29：4を開き、そのページのイザヤ 29：4の横の

余白に「2 ニーファイ 3：19－20 へ」と書く。次に、2 ニーファイ 3：19－20を開き、2 ニーファイ 3：19－20の横の余白に「2 ニーファイ 26：16 へ」と書く。すべての節についてこの作業を繰り返す。ジョセフ・スミス—歴史 1：52－53に到達したら、余白に「イザヤ 29：4 へ」と書き、最初の聖句につなぐ。

- モルモン書を受け入れることによって得られる祝福について、5分から8分の話を用意する。その際、以下の質問や資料を参考にするとよい。

モルモン書を受け入れることによって得られる祝福

モルモン 8：12。モルモン書を非難したり批判したりしない人にはどのような祝福が与えられるだろうか。

モルモン 8：17。モルモン書に誤りを見いだそうとするべきでないのはなぜだろうか。

教義と聖約 20：8－15。モルモン書を受け入れるならば、どのような真理を知ることになるだろうか。

自分の経験から——モルモン書を受け入れることによって自分が受けてきた霊的な祝福に、どのようなものがあるだろうか。

エズラ・タフト・ベンソン大管長——「モルモン書がさらによく理解できるように祝福します。これからモルモン書を毎日ひもとき、そこに書かれている教えに従って生きるなら、神がシオンの子らと教会のうえに、かつてない祝福を注いでくださるということを約束します。」（『聖徒の道』1986年7月号、78）